

# 産婦人科学

## 1 構 成 員

	平成 24 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	1 人	
准教授	1 人	
講師（うち病院籍）	2 人	(2 人)
助教（うち病院籍）	5 人	(3 人)
助手（うち病院籍）	0 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	2 人	
医員	2 人	
研修医	4 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	5 人	(0 人)
研究生	5 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	9 人	
合計	37 人	

## 2 教員の異動状況

- 金山 尚裕（教授）（H11.11.1～現職）  
 杉原 一廣（准教授）（H19.3.1～19.3.31 助教授；H19.4.1～現職）  
 伊東 宏晃（病院教授）（H20.7.1～H21.3.31 講師；H21.4.1～H22.12.31 准教授；H23.1.1～現職）  
 宮部 勇樹（助教）（H17.7.1～19.3.31 助手；H19.4.1～現職）  
 村上 浩雄（助教）（H22.4.1～現職）  
 田村 直顕（助教）（H22.4.1～現職）  
 加藤 誠（助教）（H22.10.1～H24.3.31 退職）  
 鈴木 一有（講師）（H19.6.1～H21.9.30 助教；H21.10.1～現職）  
 中村 友紀（診療助教）（H20.10.1～現職）  
 内田 季之（講師）（H21.6.1～H23.4.30 助教；H23.5.1～現職）  
 谷口千津子（特任助教）（H22.1.1～現職）  
 古田 直美（特任助教）（H23.12.1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 23 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	20 編	( 9 編)
そのインパクトファクターの合計	33.23	

(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0 編
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	18 編 (17 編)
そのインパクトファクターの合計	3.76
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	13 編 (13 編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	5 編 (2 編)
そのインパクトファクターの合計	2.09
(6) その他 (レター等)	0 編
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Itoh H, Yura S, Sagawa N, Kanayama N, Konishi I, Hamamatsu Birth Cohort for Mothers and Children (HBC) Study Team: Neonatal exposure to leptin reduces glucose tolerance in adult time. *Acta Physiol* 202(2): 159-164, 2011.
2. Furuta N, Yaguchi C, Itoh H, Morishima Y, Tamura N, Kato M, Uchida T, Suzuki K, Sugihara K, Kawabata Y, Suzuki N, Sasaki T, Horiuchi K, Kanayama N: Immunohistochemical detection of meconium in the fetal membrane, placenta and umbilical cord. *Placenta* 33: 24-30, 2012.
3. Kato M, Itoh H, Nagahashi K, Izima M, Yaguchi C, Uchida T, Suzuki K, Sugihara K, Kanayama N: Reduction in maternal complement levels during delivery by cesarean section. *J Obstet Gynaecol Res* 38(1): 165-171, 2012.
4. Shibata TK, Matsumura F, Wang P, Yu S, Chou CC, Khoo KH, Kitayama K, Akama TO, Sugihara K, Kanayama N, Kojima-Aikawa K, Seeberger PH, Fukuda M, Suzuki A, Aoki D, Fukuda MN. Identification of mono- and disulfated N-acetyl-lactosaminyl Oligosaccharide structures as epitopes specifically recognized by humanized monoclonal antibody HMOCC-1 raised against ovarian cancer. *J Biol Chem* 287(9): 6592-602, 2012.
5. 伊東宏晃: 子宮峡部の生理と病理 クリニカルカンファレンス 4) 周産期 化学的な視点から分娩の生理と病理を探る 第 63 回日本産科婦人科学会雑誌 63(12): 251-260, 2011.
6. 伊東宏晃: 妊娠前の体格や妊娠中の体重増加量については? 産婦人科診療ガイドライン解説 産科改訂版 第 63 回日本産科婦人科学会雑誌 63(12): 315-320, 2011.
7. 金山尚裕: 産婦人科診療ガイドライン解説 産科改訂編 7) CQ316 分娩時大量出血への対応は? 日本産科婦人科学会雑誌 64(1): 26-32, 2012.
8. 伊東宏晃: 我が国における妊娠高血圧症候群と栄養管理について 栄養学雑誌 69: 3-9, 2011.
9. 伊東宏晃: 子宮峡部の生理と病理 科学的な視点から分娩の生理と病理を探る/クリニカルカンファレンス 周産期 日本産科婦人科学会雑誌 60: N251-N258, 2011.
10. 伊東宏晃: 妊娠 12 週未満切迫流産への対応は? 産婦人科診療ガイドライン解説 産科改訂版 日本産科婦人科学会雑誌 63:N321-N323, 2011.
11. 伊東宏晃: 妊娠高血圧症候群と我が国における妊婦の栄養管理/シンポジウム: 食生活の変化が妊娠高血圧発症に及ぼす影響について 日本妊娠高血圧学会雑誌 19:71-74, 2012.

インパクトファクターの小計 [ 12.38 ]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Iwaki T, Tanaka A, Miyawaki Y, Suzuki A, Kobayashi T, Takamatsu J, Matsushita T, Umemura K, Urano T, Kojima T, Terao T, Kanayama N. Life-threatening hemorrhage and prolonged wound healing are remarkable phenotypes manifested by complete plasminogen activator inhibitor-1 deficiency in humans. *J Thromb Haemost* 9(6): 1200-1206, 2011.

インパクトファクターの小計 [ 5.44 ]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Fuji T, Yura S, Tatsumi K, Mogami H, Fujita K, Kondoh E, Kakui K, Aoe S, Itoh H, Sagawa N, Fujii S, Konishi I. Branched-chain amino acid supplemented diet during maternal food restriction prevents developmental hypertension in adult rat offspring. *J Dev Orig Health Dis*. 2; 176-183, 2011.
2. Matsumoto K, Tsuchiya KJ, Itoh H, Kanayama N, Suda S, Matsuzaki H, Iwata Y, Suzuki K, Nakamura K, Mori N, Takei N; HBC Study Team. Age-specific 3-month cumulative incidence of postpartum depression: The Hamamatsu Birth Cohort (HBC) Study. *J Affect Disord* 133(3): 607-610, 2011.
3. Hirai K, Sugimura M, Ohashi R, Suzuki K, Itoh H, Sugihara K, Kanayama N: A rapid activated protein C sensitivity test as a diagnostic marker for a suspected venous thromboembolism in pregnancy and puerperium. *Gynecol Obstet Invest* 72(1): 55-62, 2011.
4. Minakami H, Hiramatsu Y, Koresawa M, Fujii T, Hamada H, Itsuka Y, Ikeda T, Ishikawa H, Ishimoto H, Itoh H, Kanayama N, Kasuga Y, Kawabata M, Konishi I, Matsubara S, Matsuda H, Murakoshi T, Ohkuchi A, Okai T, Saito S, Sakai M, Satoh S, Sekizawa A, Suzuki M, Takahashi T, Tokunaga A, Tsukahara Y, Yoshikawa H; Japan Society of Obstetrics and Gynecology; Japan Association of Obstetricians and Gynecologists. Guidelines for obstetrical practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology (JSOG) and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists (JAOG) 2011 edition. *J Obstet Gynaecol Res*. 37(9):1174-1197, 2011.
5. Tawara F, Tamura N, Sukanuma N, Kanayama N: Changes in cervical neutrophil elastase levels during the menstrual cycle. *Reprod Med Biol* (11): 65-68, 2012.
6. Hatakeyama S, Sugihara K, Shibata T, Kanayama J, Akama T, Tamura N, Shuk-Man Wong, Andrey Bobkov, Takano Y, Ohyama C, Fukuda M, Fukuda M: Targeted drug delivery to a tumor vasculature by a carbohydrate mimetic peptide. *PANS* 180(49): 19587-19592, 2011.
7. 西口富三, 河村隆一, 杉山緑, 宇津正二, 山崎香織, 長橋ことみ, 金山尚裕, 小林隆夫: ビタミンK 経母体投与下における新生児血中 PIVKA-II 値の推移—高感度 PIVKA-II 測定法を用いたの評価— *日本産婦人科・新生児血液学会誌* 21(2): 15-22, 2012.
8. 木村聡, 田村直顕, 内田季之, 鈴木一有, 森島賀子, 伊東宏晃, 金山尚裕: DIC 初発羊水塞栓症と心肺虚脱羊水塞栓症の血清マーカーの比較 (羊水塞栓症登録事業) *日本産婦人科・新生児血液学会誌* 21(2): 55-59, 2012.

インパクトファクターの小計 [ 15.41 ]

### (3) 総 説

#### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 谷口千津子, 金山尚裕: 6. 絨毛膜羊膜炎 産科と婦人科 78(6): 688-693, 2011.
2. 伊東宏晃: 低出生体重児の長期予後 産婦人科治療 102: 337-340, 2011.
3. 伊東宏晃: PIH 妊婦の栄養管理 産婦人科治療 102: 839-845, 2011.
4. 金山尚裕: 羊水塞栓症とアレルギー 周産期医学 41(5): 669-673, 2011.
5. 伊東宏晃: 【妊娠中の栄養管理】妊娠糖尿病と胎児 臨床婦人科産科 65(5): 676-680, 2011.
6. 伊東宏晃: 妊婦糖尿病と胎児の発育異常 周産期医学 41(12): 1605-1608, 2011.
7. 金山尚裕: 羊水塞栓症 ペリネイタルケア 30(9): 49-54, 2011.
8. 金山尚裕: DIC 型後産期出血は子宮型羊水塞栓症か? 産科と婦人科 78(10): 83-89, 2011.
9. 加藤誠, 伊東宏晃, 金山尚裕: 【治療におけるポイントと課題】常位胎盤早期剥離 (早剥) の DIC の対策と治療 臨床婦人科産科 医学書院 65(11): 1346-1351, 2011.
10. 田村直顕, 伊東宏晃: 【早産の予防・診断】早産と細菌性膣症 臨床婦人科産科 65(12): 1444-1447, 2011.
11. 杉原一廣: 糖鎖を mimic するペプチド IF7 を用い腫瘍血管内皮細胞を標的とする新規抗がん剤の実用化を目指した研究 産婦人科の実際 61(2): 181-187, 2012.
12. 杉原一廣: 私の研究とトランスレーショナル・リサーチ 日産婦医会・日産婦学会静岡県支部地方部会会報(48): 4-6, 2011.
13. 杉原一廣: アカデミア発の創薬を目指した研究 NEWSLETTER 38(2): 8, 2012.
14. 金山尚裕: 座長のまとめ 教育講演 11 「分娩誘発における安全管理～ガイドライン 2011 に基づく～」神奈川県立こども医療センター産婦人科 石川浩史 日本周産期・新生児医学会雑誌 47(4), 2011.
15. 金山尚裕: 子癇の予防と発作時の対応 日産婦医会共同企画 症例から学ぶハイリスク妊婦への対応 I 重症妊娠高血圧症候群の重篤な合併症予防対策 第 63 回日本産科婦人科学会雑誌 63(12): 266-269, 2011.

インパクトファクターの小計 [ 0.00 ]

#### C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 木村聡, 金山尚裕: 109 羊水塞栓症 周産期医学必修知識 第7版 東京医学社 322-324, 2011.
2. 石渡勇, 関澤明彦, 池田智明, 金山尚裕: 353 妊産褥婦死亡の届出と登録 周産期医学必修知識 第7版 東京医学社 1012-1015, 2011.
3. Fdukuda MN, Sugihara K: Trophinin in cell adhesion and signal transduction. Frontiers in Bioscience. 1(4): 342-350, 2012.

インパクトファクターの小計 [ 3.74 ]

### (4) 著 書

#### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 田村直顕, 金山尚裕: 4. 早産 産婦人科学レビュー<最新主要文献と解説>2011 総合医

- 学社 2011.
2. 金山尚裕：7. 胎盤の異常 標準産科婦人科学第4版 医学書院 2011.
  3. 伊東宏晃：胎児プログラミング／合併症妊娠 改訂3版 村田雄二編 メディカ出版 502-508, 2011.
  4. 伊東宏晃：III合併症妊娠 4.ITP 産婦人科の薬剤使用プラクティス：病態別処方—産科編—産婦人科の実際 臨時増刊号 60(11): 1739-1745, 2011.
  5. 伊東宏晃：110 常位胎盤早期剥離 周産期医学必修知識 第7版 「周産期医学」編集委員会編 東京医学社 325-327, 2011.
  6. 田村直顕, 金山尚裕：113 産科 DIC 周産期医学必修知識 第7版 「周産期医学」編集委員会編 東京医学社 336-338, 2011.
  7. 鈴木一有, 伊東宏晃, 金山尚裕：119 胎盤ポリープの取り扱い 周産期医学必修知識 第7版 「周産期医学」編集委員会編 東京医学社 336-338, 2011.
  8. 内田季之, 伊東宏晃：131 胎盤用手剥離 周産期医学必修知識 第7版 「周産期医学」編集委員会編 東京医学社 386-387, 2011.
  9. 加藤誠, 伊東宏晃：140 臍帯動脈血液ガス分析 周産期医学必修知識 第7版 「周産期医学」編集委員会編 東京医学社 410-411, 2011.
  10. 伊東宏晃：347 妊婦の体重管理 周産期医学必修知識 第7版 「周産期医学」編集委員会編 東京医学社 998-999, 2011.
  11. 伊東宏晃：348 妊娠と肥満・やせ 産期医学必修知識 第7版 「周産期医学」編集委員会編 東京医学社 1000-1001, 2011.
  12. 金山尚裕：イラストで学ぶ妊娠・分娩・産褥の生理 改訂2版 メディカ出版 2012.
  13. 金山尚裕：3次元CG 周産期診断・分娩介助教育システム 異常編 メディカ出版 2012.

## (5) 症例報告

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Nakaya Y, Itoh H, Muramatsu K, Otome M, Kobayashi Y, Hirai K, Uchida T, Suzuki K, Sugihara K, and Kanayama N. A case of spontaneous rupture of a uterine superficial varicose vein in midgestatio. J Obstet Gynaecol Res 37(8): 1149-1153, 2011.
2. Sakai N, Akamine S, Tokuyama T, Sugiyama K, Kanayama N, Namba H: Chronic subdural hematoma in a patient with congenial afibrinogenemia successfully treated with fibrinogen replacement. Neurologia medico-chirurgia 51(11): 780-783, 2011.
3. Horikoshi Y, Itoh H, Kikuchi S, Uchida T, Suzuki K, Sugihara K, Kanayama N, Mori A, Umemoto S: Successful living donor liver transplantation for fulminant hepatic failure that manifested immediately after cesarean delivery. ASAIO J: 58(2): 174-176, 2012.
4. 中山真人, 岡垣竜吾, 鈴木元晴, 石原 理, 金山尚裕, 板倉敦夫：血清中 Zinc coproporphyrin 1 (Zn-CP1)、Sialyl Tn (STN) が陰性であるも特殊染色を加えた病理解剖により診断し得た羊水塞栓症の1例 日本産婦人科・新生児血液学会誌 21(2): 23-28, 2012.
5. 菊池卓, 加茂亜希, 望月亜矢子, 田村直顕, 平井久也, 村上浩雄, 宮部勇樹, 伊東宏晃, 杉原

一廣, 金山尚裕: 画像診断にて悪性腫瘍と鑑別困難であった子宮腺筋症の一例 日本産婦人科学会関東連合地方部会会報 48(4): 489-493, 2011.

インパクトファクターの小計 [ 2.09 ]

#### 4 特許等の出願状況

	平成 23 年度
特許取得数 (出願中含む)	2 件

1. Kazuhiro Sugihara, et al.

METHODS AND COMPOSITIONS RELATED TO ANNEXIN 1 -BINDING COMPOUNDS

PCT application. December 23, 2011.

2. 金山尚裕

PAI-1 による流産、早産診断薬、治療薬 平成 23 年 7 月

#### 5 医学研究費取得状況

	平成 23 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	6 件	(2,009 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	1 件	(100 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	1 件	(170 万円)
(4) 財団助成金	2 件	(240 万円)
(5) 受託研究または共同研究	1 件	(300 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	22 件	(1,045 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

杉原一廣 (代表者) 基盤研究 (B) 腫瘍血管内皮を標的とする分子標的治療薬の開発 897 万円 (新規)

伊東宏晃 (代表者) 基盤研究 (B) 脂肪組織を核とした臓器間クロストークの視点から成人病胎児起源説の基礎的解析 420万円 (継続)

鈴木一有 (代表者) 基盤研究 (C) 近赤外線分光法による胎盤酸素化動態に胎児循環がおよぼす影響についての基礎的検討 90万円 (継続)

田村直顕 (代表者) 基盤研究 (C) 着床部位子宮内膜組織のヒト絨毛性ゴナドトロピンを介する細胞内情報伝達系の解明 210万円 (新規)

伊東宏晃 (代表者) 挑戦的萌芽研究 質量顕微鏡を用いたヒト胎盤絨毛における生体高分子発現の解析方法の開発 150万円 (新規)

森島賀子 (代表者) 挑戦的萌芽研究 羊水塞栓症診断のための新規Zn-CP I 測定法の開発 240万円 (新規)

(2) 厚生労働科学研究費

金山尚裕 (分担者) 妊産婦死亡及び乳幼児死亡の原因究明と予防策に関する研究 100 万円 (継続) 代表者 国立循環器病センター周産期治療部 池田智明

(3) 他政府機関による研究助成

金山尚裕 (代表) 独立行政法人 科学技術振興機構(JST) 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) 新規深部静脈血栓症予知マーカー (APC 感受性) 簡易測定法の開発 170 万円 (新規)

(4) 財団助成金

伊東宏晃 (代表者) 財団法人 浜松科学技術研究振興会 40 万円 (新規)

金山尚裕 (代表者) 羊水塞栓症の血清診断事業 財団法人日母日本産科婦人科おぎゃー献金 200 万円 (新規)

(5) 受託研究または共同研究

杉原一廣 (代表者) 内視鏡検査における大腸癌を標的とした蛍光プローブの開発 企業 300 万円 (新規)

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	21 件
(2) シンポジウム発表数	2 件	2 件
(3) 学会座長回数	0 件	24 件
(4) 学会開催回数	0 件	1 件
(5) 学会役員等回数	0 件	36 件
(6) 一般演題発表数	8 件	

(1) 国際学会等開催・参加

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Kanayama N: Pathophysiology of DIC type post partum hemorrhage. The 6th Japanese-German Conference on Thrombosis and Hemostasis. Sapporo Japan, 29-30 July, 2011.
2. Itoh H: Developmental Origins of Cardiac Remodeling. Satellite Symposium on 7th World Congress on Developmental Origins of Health and Disease (DOHaD). Portland, OR USA, 22 September, 2011.

5) 一般発表

口頭発表

1. Tamura N: Trophinin-mediated cell adhesion induces apoptosis of human endometrial epithelial cells through PKC- The 11th Hamamatsu-Kyungpook Joint Medical Symposium. September, Kyungpook University, 2011.

ポスター発表

1. Shibata T, Sugihara K, Nakayama J, Fukuda m, Fukuda mn: Targeted Drug Delivery to Tumor Vasculature by a Carbohydrate Mimetic Peptide. 2011 Annual Conference of the Society for Glycobiology 9-12 November, 2011, The Westin Seattle, Seattle, WA
2. Itoh H, Kohmura KY, Muramatsu K, Uchida T, Suzuki K, Kanayama N: 7th World Congress on

- Developmental Origins of Health and Disease (DOHaD). September 18-21, 2011, at Portland, OR USA. “Neonatal Growth Rate after Undernourishment in utero Positively Correlates with Chronic Inflammatory Reactions in the White Adipose Tissues of Adult Mice, as a Risk of Developing Obesity“
3. Tamura N, Itoh H, Uchida T, Suzuki S, Kanayama N. 59th Annual Meeting of Society for Gynecologic Investigation (SGI). March 21-24, 2012 at San Diego, USA “The analysis of 303 cases with massive postpartum hemorrhage“
  4. Muramatsu K, Itoh H, Kohmura Y, Yamazaki K, Nagahashi K, Nakamura Y, Tamura N, Uchida T, Suzuki S, Kanayama N. 59th Annual Meeting of Society for Gynecologic Investigation (SGI). March 21-24, 2012 at San Diego, USA “Infantile growth after undernourishment in utero positively correlates with fat deposit in the liver of adult mice, as a risk of Non-alcoholic Fatty Liver Disease(NAFLD)“
  5. Yamazaki K, Itoh H, Muramatsu K, Nagahashi K, Nakamura Y, Tamura N, Uchida T, Suzuki K, Kanayama N. 59th Annual Meeting of Society for Gynecologic Investigation (SGI). March 21-24, 2012 at San Diego, USA “Real time cerebral hemodynamics evaluation by Time-Resolved Spectroscopy (TRS-20) during cesarean operation“
  6. Nagahashi K, Iwaki T, Muramatsu K, Yamazaki K, Nakamura Y, Tamura N, Itoh H, Kanayama N. 59th Annual Meeting of Society for Gynecologic Investigation (SGI). March 21-24, 2012 at San Diego, USA “Successful management of deliveries of a woman with PAI-1 deficiency -A critical role of PAI-1 in the maintenance of pregnancy- “
  7. Itoh H, Kohmura Y, Muramatsu K, Yamazaki K, Nagahashi K, Nakamura Y, Tamura N, Uchida T, Suzuki S, Kanayama N. 59th Annual Meeting of Society for Gynecologic Investigation (SGI). March 21-24, 2012 at San Diego, USA “Infantile growth after undernourishment in utero positively correlates with chronic inflammatory reactions in the white adipose tissues of adult mice, as a risk of developing obesity“

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

第19回静岡 Cancer Therapy Conference 会長：杉原一廣 2011年6月18日 浜松

2) 学会における特別講演・招待講演

村上浩雄：奇松会勉強会 「婦人科診療ガイドライン2011 感染症」 4月 浜松

杉原一廣：新生血管を標的とする新規DDS（薬剤運搬システム）型抗腫瘍薬の開発 第19回静岡 Cancer Therapy Conference 6月 浜松

伊東宏晃：神澤医学研究振興財団 第13回講演会 神澤医学賞受賞講演 「子宮内環境の制御機構ならびに児の長期予後への影響の研究—成人病発症リスクとしての子宮内環境因子の解析をめざして—」 6月 東京

杉原一廣：グラクソ・スミスクライン共催「女性の病気とがん」セミナー

『女性の病気、子宮頸がんをいっしょに学びましょう』 8月 浜松



金山尚裕：子癩の予防と管理 第 63 回日本産科婦人科学会 8 月 大阪

伊東宏晃：科学的な視点から分娩の生理と病理を探る 第 63 回日本産科婦人科学術講演会 生涯研修プログラム・クリニカルカンファレンス 「子宮峡部の生理と病理」 8 月 大阪

伊東宏晃：CQ010「妊娠前の体格や妊娠中の体重増加については？」 第 63 回日本産科婦人科学術講演会 産婦人科診療ガイドライン解説 産科改訂編 8 月 大阪

伊東宏晃：CQ206「妊娠 12 週未満切迫流産への対応は？」 第 63 回日本産科婦人科学術講演会 産婦人科診療ガイドライン解説 産科改訂編 8 月 大阪

伊東宏晃：キッセイ薬品工業中央研究所 招待講演 「低出生体重の長期予後 —マウス動物モデルの解析—」 8 月 松本

杉原一廣：グラクソ・スミスクライン共催「女性の病気とがん」セミナー 『女性の病気、子宮頸がんをいっしょに学びましょう』 9 月 静岡

金山尚裕：会陰裂傷縫合術のポイント 第 27 回日本分娩研究会 9 月 京都

金山尚裕：助産師のための会陰切開と縫合術 9 月 京都

伊東宏晃：拡大一土会学術講演会（静岡市産婦人科医会）分娩における至急峡部の生理と病理 —後産期出血のピットフォール— 9 月 静岡

内田季之：分娩管理の基本「危機的産科出血の取り扱い—羊水塞栓症を含めて—」 第 38 回日本産婦人科医会 10 月 浜松

内田季之：科研製薬(株)浜松営業所社内勉強会 11 月 浜松

伊東宏晃：「症例から学ぶ産科出血のリスクマネージメント」 京都産婦人科研究会 特別講演 11 月 京都

金山尚裕：産婦人科から見たアンチエイジング 第 6 回抗加齢医学研究会 3 月 浜松

伊東宏晃：我が国における妊娠の栄養管理をめぐる諸問題 第 18 回北海道周産期研究会 3 月 札幌

金山尚裕：羊水塞栓症と DIC 第 19 回名古屋第二赤十字病院周産期カンファレンス 3 月 名古屋

金山尚裕：羊水塞栓症と産科 DIC 石川産科婦人科学会 平成 23 年度学術集会 3 月 金沢市

金山尚裕：周産期管理の最近の話題 早産予防・低出生体重児低減対策講演会 3 月 鹿児島

### 3) シンポジウム発表

伊東宏晃：妊娠高血圧症候群と我が国における妊娠の栄養管理 第 32 回日本妊娠高血圧学会 10 月 金沢

金山尚裕：「管理者の立場から女性医師のキャリアサポートについて考える」～女性医師に期待すること、女性医師を離職させないためにできること～ FUJIYAMA-NET 平成 23 年度女性医師シンポジウム 1 月 東京

### 4) 座長をした学会名

金山尚裕 産婦人科学術講演会 5 月 浜松

金山尚裕 第29回日本産婦人科感染症研究会学術集会 6月 倉敷  
 金山尚裕 産婦人科学術講演会 5月 浜松  
 金山尚裕 第29回日本産婦人科感染症研究会学術集会 6月 倉敷  
 金山尚裕 静岡産科婦人科学会春季学術集会 6月 静岡  
 伊東宏晃 第121回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 6月 東京  
 金山尚裕 第19回静岡 Cancer Therapy Conference 6月 浜松  
 杉原一廣 第19回静岡 Cancer Therapy Conference 6月 浜松  
 伊東宏晃 Hamamatsu DOHaD Conference 7月 浜松  
 金山尚裕 第47回日本周産期・新生児医学会 7月 札幌  
 金山尚裕 第63回日本産科婦人科学会 8月 大阪  
 金山尚裕 第35回日本産科婦人科栄養代謝研究会 8月 東京  
 金山尚裕 第52回日本母性衛生学会 9月 京都  
 金山尚裕 第19回日本胎盤学会 9月 東京  
 伊東宏晃 第38回日本産婦人科医会学術集会 10月 浜松  
 金山尚裕 第38回日本産婦人科医会学術集会 10月 浜松  
 金山尚裕 第32回日本妊娠高血圧学会 10月 金沢  
 伊東宏晃 第122回関東連合産科婦人科学会 10月 横浜  
 内田季之 第29回周産期医療研究会 11月 鹿児島  
 杉原一廣 平成23年度秋季静岡産科婦人科学会 12月 浜松  
 杉原一廣 子宮がん集団検診医師講習会 12月 浜松  
 金山尚裕 平成23年度秋季静岡産科婦人科学会 12月 浜松  
 金山尚裕 第11回東海不妊内分泌研究会 1月 静岡  
 伊東宏晃 第21回臨床内分泌代謝 Update 1月 浜松

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

金山尚裕 日本産婦人科学会代議員  
 金山尚裕 日本胎盤学会理事  
 金山尚裕 日本妊娠高血圧学会理事  
 金山尚裕 日本産婦人科学会関東連合地方部会理事  
 金山尚裕 日本栄養代謝学会理事  
 金山尚裕 日本周産期新生児学会代議員  
 金山尚裕 日本生殖医学会代議員  
 金山尚裕 日本母性衛生学会評議員  
 金山尚裕 日本産婦人科新生児血液学会評議員  
 金山尚裕 日本周産期学会幹事  
 金山尚裕 日本産婦人科 ME 学会幹事  
 金山尚裕 中部不妊学会評議員  
 金山尚裕 静岡産科婦人科学会長

- 金山尚裕 静岡産婦人科医会理事  
 金山尚裕 静岡県母性衛生学会常任理事  
 金山尚裕 日本産婦人科医会静岡県支部理事  
 金山尚裕 The Journal of Obstetrics and Gynecology Research 査読委員  
 杉原一廣 日本胎盤学会評議員  
 杉原一廣 日本生殖学会評議員  
 杉原一廣 日本産科婦人科学会静岡県地方部会日産婦専門医制度委員会委員  
 杉原一廣 日本産婦人科医会静岡県支部がん対策委員会医員  
 杉原一廣 静岡県治験ネットワーク支援倫理委員会委員  
 杉原一廣 日本産婦人科医会静岡県支部がん対策委員  
 杉原一廣 静岡 CTC(Cancer Therapy Conference)世話人  
 杉原一廣 静岡サイコオンコロジー研究会世話人  
 杉原一廣 JOGR(The Journal of Obstetrics and Gynecology Research)査読委員  
 杉原一廣 Kanto Journal of Obstetrics and Gynecology 査読委員  
 杉原一廣 日本産科婦人科学会静岡地方部会誌査読委員  
 杉原一廣 婦人科腫瘍学会指定修練施設：浜松医科大学医学部附属病院 指導責任者  
 杉原一廣 JGOG 参加登録施設：浜松医科大学医学部附属病院 指導責任者  
 杉原一廣 日本産科婦人科学会代議員  
 伊東宏晃 日本周産期・新生児医学会評議員  
 伊東宏晃 日本内分泌学会代議員、評議員  
 伊東宏晃 日本心血管内分泌代謝学会評議員  
 伊東宏晃 日本妊娠高血圧学会代議員、評議員伊東宏晃 日本産科婦人科学会：平成 21 年度－平成 23 年度；周産期委員会，周産期医療における未承認薬の承認にむけての活動委員  
 伊東宏晃 日本産科婦人科学会：平成 21 年度－平成 23 年度；周産期委員会，早産のリスク因子の解明と具体的な予防法確立に関する小委員会委員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	3 件

### (2) 外国の学術雑誌の編集

伊東宏晃：Journal of Development Origins of Health and Disease(ISSN:2040-1744) Editorial Board

伊東宏晃：Journal of Obstetrics and Gynecology Research (ISSN: 4993-0711) Editorial Board

伊東宏晃：Medical Biochemistry (ISSN: 1027-0256) Editorial Board

### (3) 国内外の英文雑誌のレフリー

金山尚裕 1 回 Journal of Obstetrics and Gynecology Research (Australia)

杉原一廣 2 回 Kanto Journal of Obstetrics and Gynecology (Japan)

- 伊東宏晃 1回 Acta Physiologica (Scandinavia)  
 伊東宏晃 1回 Tissue and Cell (Scotland)  
 伊東宏晃 1回 European Journal of Endocrinology (England)  
 伊東宏晃 1回 European Journal of Obstetrics & Gynecology and Reproductive Biology (Netherlands)  
 伊東宏晃 2回 Endocrine Journal (Japan)  
 内田季之 2回 Journal of Obstetrics and Gynecology Research (Australia)

## 9 共同研究の実施状況

	平成 23 年度
(1) 国際共同研究	7 件
(2) 国内共同研究	5 件
(3) 学内共同研究	1 件

### (1) 国際共同研究

#### 1. 腫瘍血管内皮細胞を標的とするペプチドを用いた新規抗癌剤の開発

研究代表者：杉原一廣

共同研究機関：Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

論文：Sugihara K, et al. Proc Natl Acad Sci U S A. 106(9): 3095-3100, 2009.

Sugihara K, et al. Proc Natl Acad Sci U S A. 108(49):19587-92, 2011.

特許：Sugihara K, et al. METHODS AND COMPOSITIONS RELATED TO ANNEXIN 1  
 -BINDING COMPOUNDS PCT application. December 23. 2011

#### 2. 子宮内膜症に対する分子標的治療薬の開発

研究代表者：杉原一廣

共同研究機関：Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

#### 3. 新規超早期診断法の開発

研究代表者：杉原一廣

共同研究機関：Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)、国内：企業

#### 4. 着床率を改善する薬剤と方法の開発

研究代表者：杉原一廣 共同研究機関：Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

#### 5. 精子運動能と受精率を改善する薬剤の開発

研究代表者：杉原一廣 共同研究機関：Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

#### 6. 着床における接着分子トロフィニンの分子機構解析

研究代表者：杉原一廣 共同研究機関：Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

7. 着床障害（不妊症）の原因遺伝子解析

研究代表者：杉原一廣 共同研究機関：Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

(2) 国内共同研究

1. 金山尚裕：子宮筋の非侵襲的酸素動態モニタリングの開発（昭和大学，国立循環器病センター，浜松ホトニクス）
2. 金山尚裕：コンピュータシミュレーションによる難産診断装置の開発（川崎医療短大）
3. 金山尚裕：ウリナスタチンによる早産防止の検討（日本早産予防研究会）
4. 杉原一廣：蛍光プローブの開発（企業）
5. 杉原一廣：新規超早期診断法の開発（企業）

(3) 学内共同研究

1. 金山尚裕：子宮頸癌の PDT 治療（光量子センター，生命科学）

## 10 産学共同研究

	平成 23 年度
産学共同研究	5 件

1. 金山尚裕：子宮、脳の非侵襲的酸素動態モニタリングの開発（浜松ホトニクス）
2. 金山尚裕：胎児心拍数細変動の自動解析法の開発（アトム）
3. 金山尚裕：新規 PET 増感剤の開発（浜松ホトニクス）
4. 杉原一廣：内視鏡検査における大腸癌を標的とした蛍光プローブの開発（企業）
5. 杉原一廣：悪性腫瘍新生血管を標的とする新規ペプチドを用いた超早期診断報の確立（企業）

## 11 受賞

(3) 国内での授賞

1. 古田直美：抗亜鉛コプロポルフィリン抗体の免疫組織染色における有用性について 第 19 回 日本胎盤学会 23 年 9 月 東京 相馬賞

## 13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1. 我々が開発した浜松医科大学発サプリメント「エンゼルストーク」の年間売上額が 1,200 万円を超えた。（金山尚裕）
2. 日本産婦人科医会の羊水塞栓症の委託事業が常置化し、恒久的に浜松医科大学が日本の羊水塞栓症研究の拠点となった。（金山尚裕）

## 15 新聞，雑誌等による報道

1. 金山尚裕：血栓症を迅速検査 APC 感受性測定 簡易キット開発 平成 23 年 8 月 24 日 化学工業日報
2. 杉原一廣：副作用少ない抗がん剤 平成 23 年 11 月 22 日 読売新聞

3. 杉原一廣: 新生血管標的の抗がん剤 浜松医大グループが開発 平成 23 年 11 月 24 日 日本経済新聞
4. 杉原一廣: 新生血管標的の抗がん剤 浜松医大グループが開発 平成 23 年 11 月 22 日 産経新聞
5. 杉原一廣: 抗がん剤 腫瘍狙い撃ち—正常組織傷めず増殖抑制— 平成 23 年 11 月 22 日 中日新聞
6. 杉原一廣: がん細胞にだけ抗がん剤を運搬 平成 23 年 11 月 22 日 静岡新聞
7. 杉原一廣: 新生血管標的の抗がん剤、浜松医大グループが開発 平成 23 年 11 月 22 日 北日本新聞
8. 杉原一廣: がん細胞“狙い撃ち” 浜松医大杉原准教授らペプチド開発 平成 23 年 11 月 22 日 静岡放送
9. 杉原一廣: 浜松医大、米 Sanford-Burnham 医学研究所、糖鎖を模倣したペプチドが腫瘍血管に抗がん剤を送り届けることを発見 平成 23 年 11 月 22 日 日経バイオテク
10. 杉原一廣: 副作用ほとんどない抗がん薬、浜松医科大学が開発 平成 23 年 11 月 22 日 Yahoo! ニュース
11. 杉原一廣: 副作用がほとんどない抗がん剤、浜松医大が開発 平成 23 年 11 月 24 日 International Business Times (IBTimes)
12. 杉原一廣: サイエンス・レポート 「死に至る病」あと何年で死なくなるか 「がん」「脳卒中」「心筋梗塞」「糖尿病」「肝硬変」 「テーラーメイド医療」「再生医療」が進めば医学の常識が変わる 2012 3/23 号 週刊ポスト